

# 經濟論叢

第121卷 第3号

---

- 日本におけるモンテスキュー研究……………木崎喜代治 1
- ブリュームンのコンビナート論  
における廃物問題……………吉田文和 26
- 労働力の価値と欲望問題……………神谷明 48
- 労働力価値の変動の歴史的な分析および  
労働力価値の下限の計測……………小川和憲 67
- 

昭和53年3月

京都大學經濟學會

## 記 事

## 経 済 学 会

京都大学経済学会と同志社大学商学会の共催による「アメリカ会計学会国際派遣講師制度」による講演と懇談会が、昭和53年2月9日（木）12時より16時まで、同志社大学アーモスト館でおこなわれた。

演題 財務諸表の目的と会計の基礎構造

シカゴ大学 prof. Sidney Davidson

(通訳 神戸商科大学教授 吉田 寛)

## (報告要旨)

アメリカにおける会計基準の歴史的推移とそこで提起されている論点などを克明に跡づけ、最近の論争点や会計基準の設定過程における諸経過などについて、興味深い報告が行なわれた。

(1) 会計基準設定の経過については、以下の順序で説明が行なわれた。

1. ペイトン、リットンの見解
2. ASOBAT
3. AICPA
4. FASB

(2) 会計基準のフレームワークを作成するにあたっては、時間をかけ、公聴会や公開草案の作成などの手続きによって合意を生み出していく。

(3) Standard と Concept のちがいがい

(4) financial Statement と financial Reporting のちがいがいについて説明。前者は証券市場との関係で資本調達的面から考えられなければならない財務上の情報提供を主としており、後者は財務会計の枠を越えた資本の配分を問題とする経営管理者への情報提供の報告である。

FASB (Financial Accounting Standards Board) は後者の内容を中心に検討している。この中で Cash-flow に関する情報が重要となる。

報告後、若干の質疑・討論が行なわれた。参加者は、京大、同志社大、立命大、龍谷大他、京都在住の会計学研究者や公認会計士など約40人であった。(野村 秀和)